

## ウイルソン病のマス・スクリーニング

研究分担者

北大小児科

荒 島 真 一 郎

研究協力者

本 間 正 勝  
南 秀 樹  
永 井 文 作  
三 山 隆 司

ウイルソン病の診断には血中セルロプラスミン値の測定が重要である。血液濾紙を用いた免疫学的簡易測定法を考案しマススクリーニングとして使用可能かどうか検討した。

検体として正常な新生児、乳児、小児、成人及びウイルソン病の患者の各々PKU用採血濾紙スポットと血清を用いた。方法は1.5%の寒天に抗セルロプラスミン血清を加え、トレイに流し固める。その上に血液濾紙を3mmにパンチしてのせ、室温一夜放置後生食で洗滌し、1%アミドブラックで染色し、稀釈酢酸溶液で脱色後反応環の径を測定した。血清はマンシーニー法によって測定した。

血清濾紙法による値と血清マンシーニー法の値はよく相関した(図1)。

血液濾紙法によってもウイルソン病患者は著しい低値でスクリーニングは容易であることが判明した。

乳児期各月令毎の測定により、新生児期は一般に低値であり、マススクリーニングは困難であった。生後6カ月以後であればスクリーニングが可能と考えられる結果を得た(図2)。

Menkes病のスクリーニングとしては乳児期の極めて初期に発見し治療を開始する必要がある、本法は今のところ不適である。

図1 血液濾紙法と Mancini 法の相関

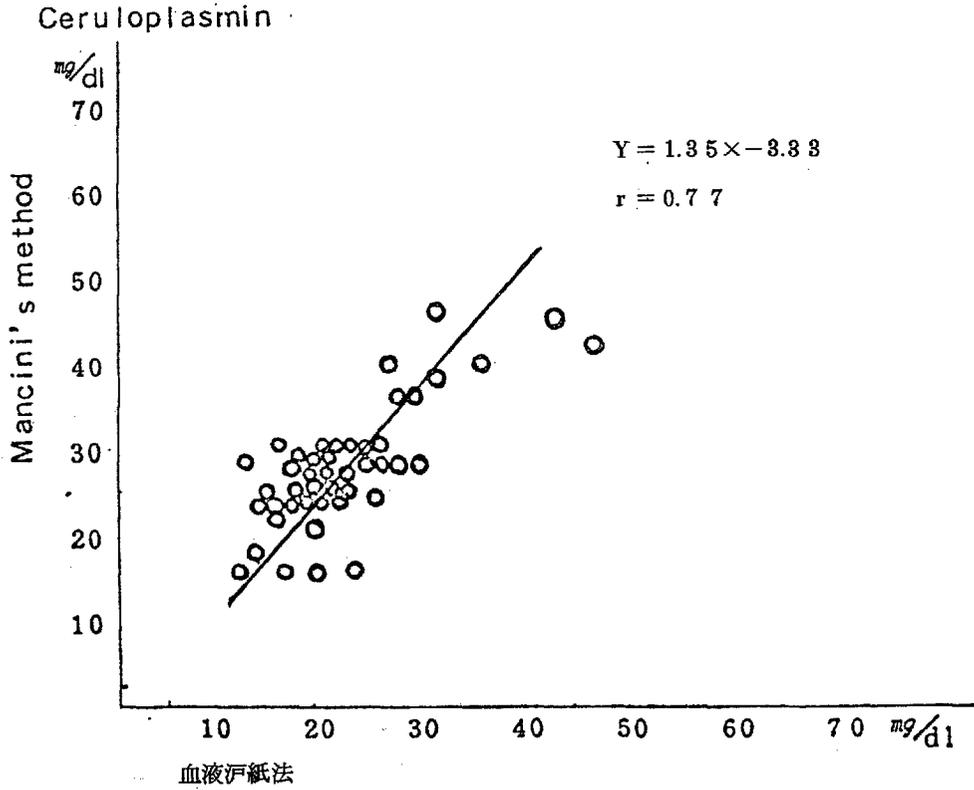
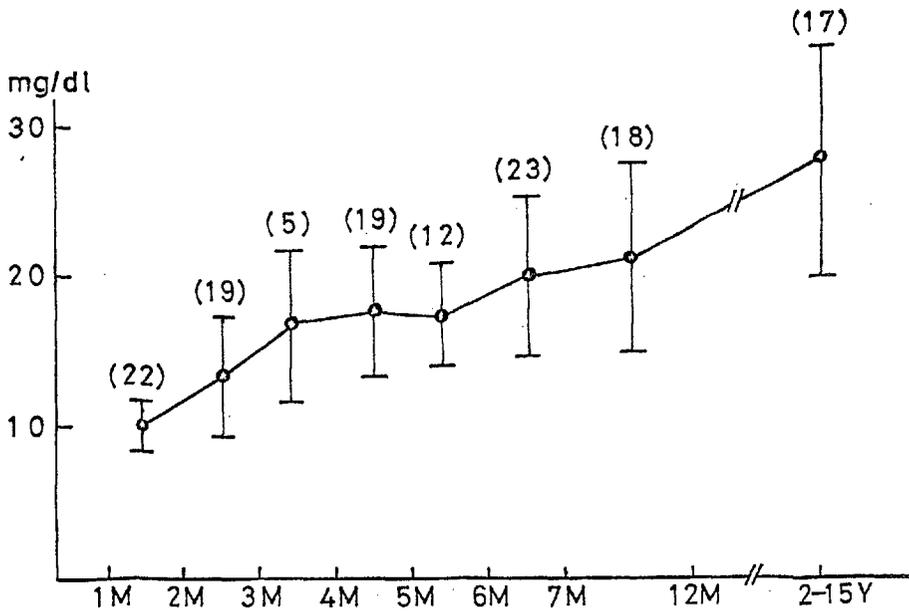
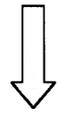


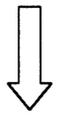
図2





## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



ウィルソン病の診断には血中セルロプラスミン値の測定が重要である。血液濾紙を用いた免疫学的簡易測定法を考案しマススクリーニングとして使用可能かどうか検討した。

検体として正常な新生児、乳児・小児、成人及びウィルソン病の患者の各々PKU用採血濾紙スポットと血清を用いた。方法は1.5%の寒天に抗セルロプラスミン血清を加え、トレイに流し固める。その上に血液濾紙を3mmにパンチしてのせ、室温一夜放置後生食で洗滌し、1%アミドプラッタで染色し、稀釈酢酸溶液で脱色後反応環の径を測定した。血清はマンシーニー法によって測定した。